

調査レポート

2015(平成27)年度 新入社員意識調査アンケート結果【大阪版】

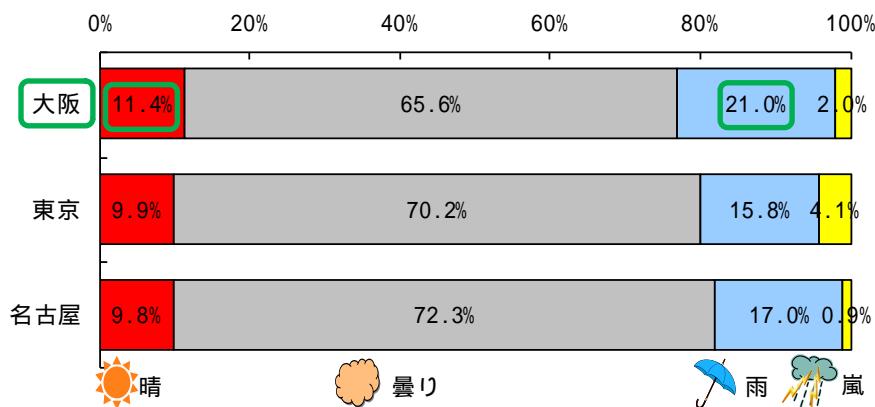
—ゆとりの中にもリーダーシップを求める大阪の新入社員—

景気の見方が分かれる大阪の新入社員

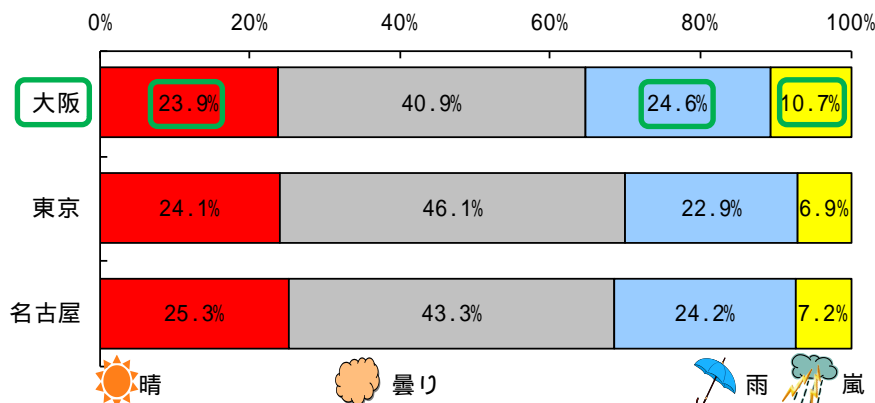
今の日本の状態をどう思うかを天気(晴、曇り、雨、嵐)で表わしてもらったところ、大阪地区では「晴」と答えた人の割合が11.4%と、東京(9.9%)や名古屋(9.8%)と比べて高かった。一方、「雨」という回答割合も21.0%で他の2地区と比べると高くなっている。大阪の新入社員の景気に対する見方は二極化している。

また、10年後の日本については、「晴」を見込む新入社員は23.9%と3地区で最も低いのに対し、「雨」や「嵐」と答えた人の割合が他の地域よりも水準が高く、現状判断と比べ上昇している。大阪の新入社員は10年後の日本について、東京や名古屋と比べて厳しい見方をしている。

図表1. 今の日本の状態を天気で表すと?



図表2. 10年後の日本の状態を天気で表すと?

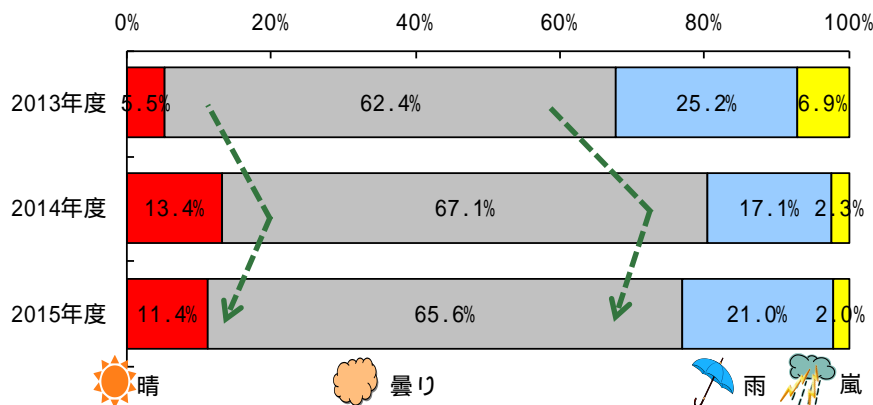


今と10年後の景気の見方について、過去2年の調査結果と比較してみる。2013年4月には「グランフロント大阪」、2014年3月には「あべのハルカス」など大型商業施設の開業が相次いだこともあって、2014年度は明るい見方が広がっていた。しかし、そうした動きも一巡し、今年度は再び「晴」が低下し「雨」が上昇した。とくに10年後については、2013年度よりも2015年度の方が慎重な見方である。景気に対する期待は既に頭打ちとなってしまうようだ。

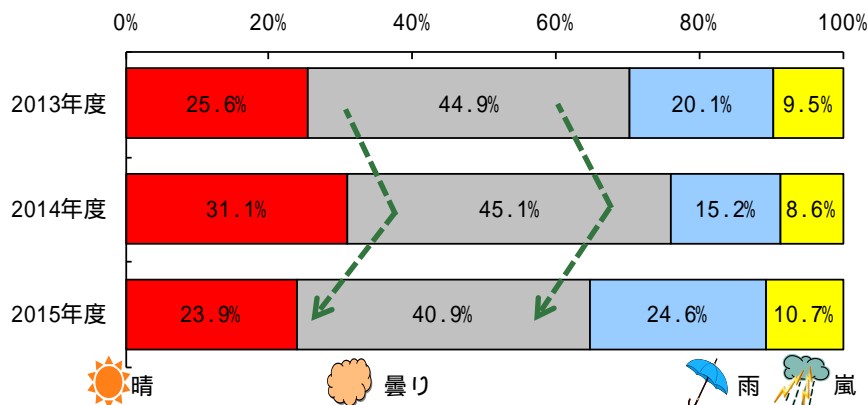
なお、アベノミクスによる日本経済への影響を聞いたところ¹、「悪くなってきている」と答えた人が8.2%で前年度の2.1%から大きく伸び、東京(6.8%)や名古屋(6.8%)の水準をわずかに上回った。

東京や名古屋の新入社員と比べると、大阪では景気に明るさを感じている人が比較的多いとはいえ、アベノミクスによる恩恵をなかなか受けられない中で、消費税率引上げなど冷や水を浴びせる出来事もあり、楽観ムードはやや弱まっている。

図表3.【大阪】今の日本の状態を天気で表すと？



図表4.【大阪】10年後の日本の状態を天気で表すと？

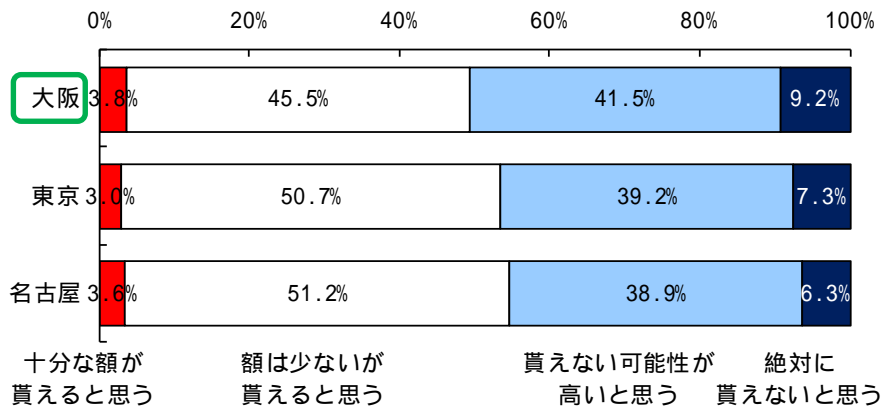


¹ 「良くなってきている」は21.1%、「どちらともいえない」は70.7%。

将来の年金には悲観的

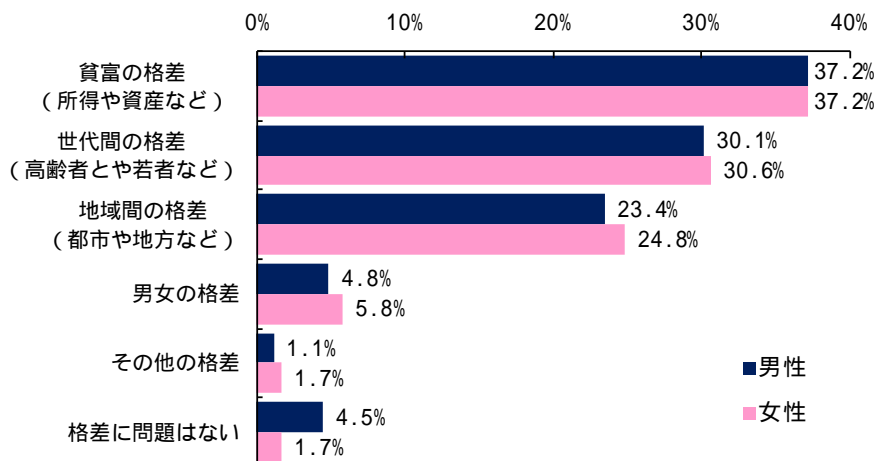
将来、自分たちの世代が年金を貰えると思うかどうかについて、大阪の新入社員の考えは東京や名古屋と比べると悲観的である。「貰えない可能性が高いと思う」と「絶対に貰えないと思う」の回答割合はともに他の地域よりも高く、合計では唯一過半数を超えている。

図表 5 . 年金について



また格差問題については、全体の結果と同様、大阪の新入社員でも「貧富の格差」が最も問題であるという意見が多かった²。もっとも、大阪では男女間での差があまりみられない。また、「地域間の格差」と答えた大阪の男性は 23.4%と、大阪の女性（24.8%）は下回っているものの、東京の男性（21.5%）や名古屋の男性（21.3%）と比べるとやや割合が高い（東京・女性は 24.7%、名古屋・女性は 27.9%）。

図表 6 . 【大阪】格差問題

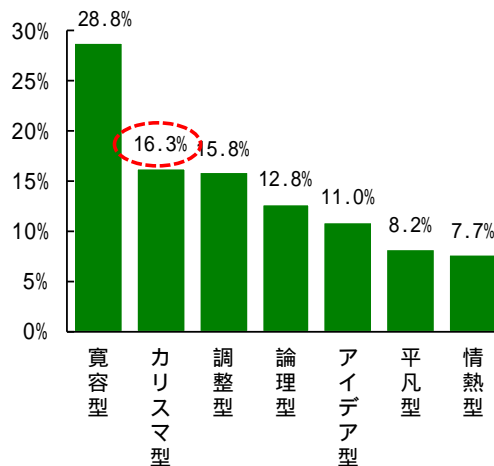


² 大阪全体では、「貧富の格差」37.2%、「世代間の格差」30.3%、「地域間の格差」23.8%、「男女の格差」5.1%、「その他の格差」1.3%、「格差に問題はない」3.6%。

大阪では「カリスマ型」の上司も人気

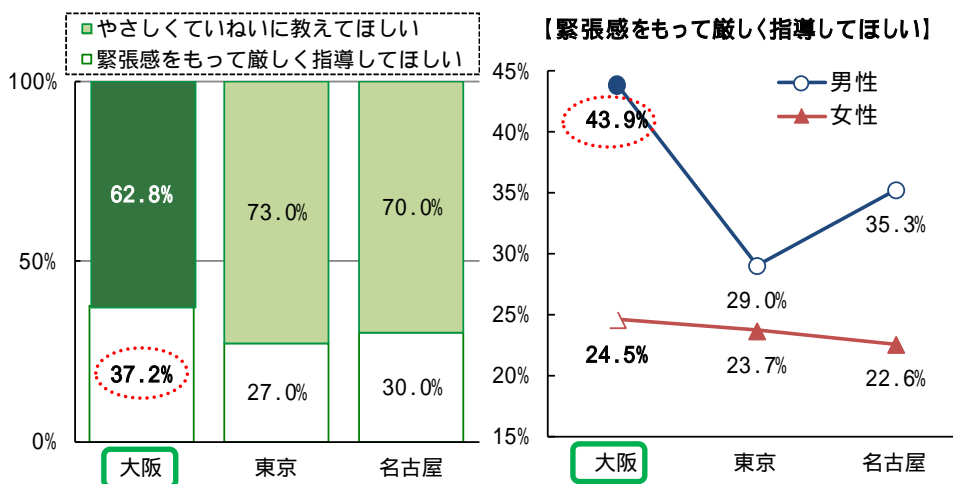
次に、理想の上司がどのタイプか、図表5の選択肢から選んでもらった。全体では「寛容型」がトップ、次いで「調整型」であったが、大阪ではトップは「寛容型」で同じだったものの、「カリスマ型」が僅差で「調整型」を抑え2位となった。

図表7.【大阪】理想の上司



また、指導の仕方について「やさしく丁寧に教えてほしい」もしくは「緊張感をもって厳しく指導してほしい」のどちらがよいか聞いたところ、大阪では他の地域と比べ後者の回答割合が高かった。性別にみると、男女とも「緊張感をもって厳しく指導してほしい」を選んだ人の割合が3地区の中でもっとも高いが、とくに男性では43.9%と突出している。

図表8. 指導の仕方

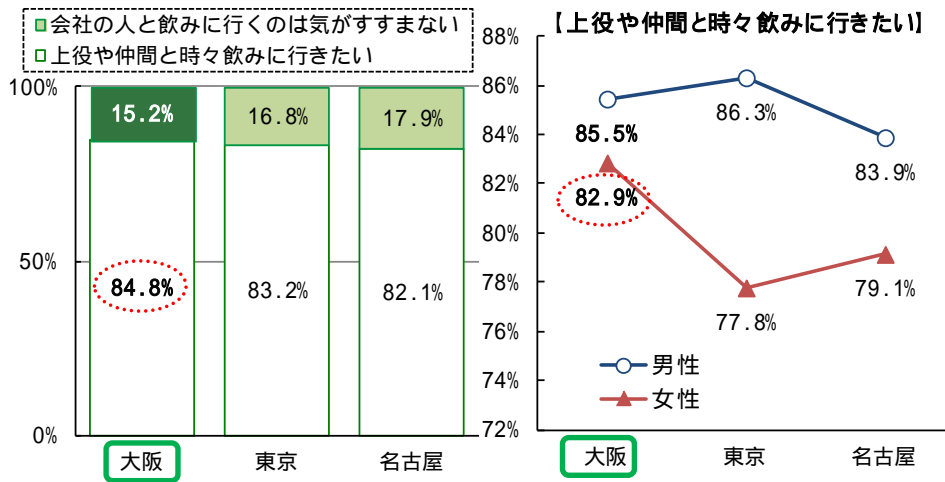


東京や名古屋と比べると大阪の新入社員には、たとえ厳しくても強いリーダーシップを持ったスター性のある人物が好まれやすいようだ。

“飲みニケーション”には女性も積極的

本編でみたように、最近の新入社員は私生活を大切にしたいという考えが強い。だからといって、会社の人と飲みに行くのが嫌かという、決してそうではない。大阪の新入社員は8割以上が「上役や仲間と時々飲みに行きたい」と思っており、とくに女性では東京や名古屋との差が顕著である。ただし、前年度は男性が90.5%、女性が88.1%だったことと比べると、いわゆる“飲みニケーション”は大阪でも敬遠されつつあるのかもしれない。

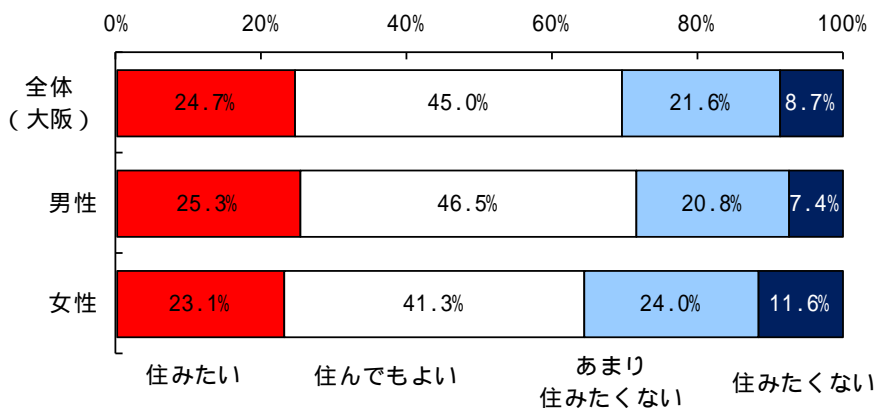
図表9. 飲みに行くこと



約7割は“田舎暮らし”に前向き

最後に、「将来、地方（いわゆる“田舎”のような場所）に住んでみたいか」について、大阪の新入社員の意見は、全体とほぼ同程度となる約7割が前向きなものだった。男性と比べると女性の方が「あまり住みたくない」や「住みたくない」という回答割合が高いことも、東京や名古屋と同じである。進学や就職を機に地方から大阪に引っ越してきた人も多いとみられるが、将来、彼ら彼女らが地元に戻ったり、また新たに“田舎暮らし”を始めたりしようとする意識は決して低くない。

図表10. 【大阪】地方移住に対する希望



三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 研究員 尾畠未輝

〒105-8501 東京都港区虎ノ門 5-11-2

TEL:03-6733-1070

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ & コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。